



社会福祉法人  
岩根福祉会  
久津間保育園  
9月1日発行

本園では、前年度から玩具の種類と量を増やしています。絵本についても増やしていきたいと考えていたところ、玉川大学教授大豆生田先生の著書「子育てを元気にする絵本」に出会いました。私自身、絵本についてもっと勉強しないといけないなと思っていました。本書は、**三つの意味**ごとに絵本が紹介され、大豆生田先生の解説が載っています。毎日の保育に生かせることがたくさん書かれていましたので、保護者の皆さんに紹介します。園長 平野弘和

### 子育てにとっての三つの意味

私は、子育てにとって、絵本は大きく三つの意味があると考えています。まず一つ目は、「**コミュニケーションを生み出す意味**」です。私が教える大学には、小さい頃、家庭で親に「ぐりとぐら」を読んでもらったと覚えている学生がたくさんいました。そしてその多くは、絵本の内容を覚えているだけでなく、あの有名なカステラ作りのシーンをまねて、お母さんと一緒にカステラ（ホットケーキ）を作った楽しい思い出を覚えていたのです。また、学生に授業で使う絵本を用意するようお願いすると、小さな頃に読んでもらった実際の絵本を持ってきてくれることがあります。そして、親に読んでもらった思い出がその絵本にはたっぷり詰まっていると、嬉しそうに話してくれます。

子どもにとって、絵本を読んでもらうことは、その時だけでなく生涯残り続ける幸せの記憶、愛された実感につながる重要な体験になりうるとも言えるかもしれません。えほんは、親子関係を形成するコミュニケーションを促す重要な意味を持つのではないのでしょうか。また、友達などの仲間との関わりを促す役割も果たしてくれます。

二つ目は「**ファンタジーを生み出す意味**」です。現実の世界で子どもは楽しいことばかり体験するわけではありません。人との関わりの中でうまくいかないことや、困難を乗り越えられない葛藤など負の体験もたくさんします。そんな子どもに力を与えるのがファンタジーの世界です。空想の世界の主人公と一緒にワクワクするような体験をし、困難に立ち向かうことで、現実世界に戻ったときに、困難を乗り越える勇気と強さを、子どもは持つことができます。心理学者の故・河合隼雄さんも「ファンタジーの世界から得る力が、子どもにとって現実を生きる力になる。」とおっしゃっています。子どもたちが、自由にファンタジーの世界に行き来できるよう、絵本はとても大切なのです。

そして三つ目は「**学びの世界を生み出す意味**」です。ある研究によると、絵本の体験が子どもの語彙力を高め、それが後の言語力、好奇心、思考力、学力などにつながると言われ、それを裏づけるエビデンスもあります。小さな頃に絵本の読み聞かせが豊富だった子どもは、生きた言葉にたくさん出会うため、言葉に対する姿勢が変わるということです。言葉の素地ができ、その後の学力の基盤になるそうです。おそらく、語彙力だけでなく、子どもたちのサイエンスや社会への興味喚起を引き出すことも期待できます。

とはいえ、「コミュニケーションのために」とか「現実から解放されるため」とか「語彙力、ひいては学力向上のために」とかを期待して、絵本を読み聞かせましようと言いたいのではありません。

子育てに絵本があることが子どもだけでなく親自身にとっても幸せな時間になるのです。親や信頼する大人や友達と物語を楽しむ絵本体験こそが、結果的に、大きな意味を持つのだと思います。

### 《9月の行事予定》

5日(火)クラスだより配布	12日(火)サッカー協会による運動教室(3,4,5歳)
6日(水)おはなし会(3,4,5歳)	14日(水)避難訓練、職員会議
11日(月)身体測定	29日(金)園だより、給食だより配布

\*10月14日(土)運動会(3~5歳児参加)を予定しております。3歳未満児で土曜保育を希望している方は、8:30~11:45の保育をお受けします。ご利用される方は、担任にお申し出ください。

\*年長児の午睡は、9/1(金)で終了となります。

\*1日に延長保育料の集金袋を配布します。**5日まで**にお持ちください。土曜日は集金致しません。お釣りのないようお願いします。